

# 令和2年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立三和中学校

## 1 国語

学年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果	【目標、結果については、全国平均との差を記入(pt)】 ○これまでの取組の成果 ●課題		
第1学年	話す・聞く能力	10	-3.6	<p>○「読むこと」の領域で、「文章の展開をとらえて、内容を整理する」ことができている。言葉や表現を根拠にしなが、段落どうしの関係や段落の役割を考えさせる取組を行ったことで、成果が出たと考える。</p> <p>●「言語事項」の領域で、漢字の書きに関する設問の正答率が低く、確実に定着していない。</p> <p>●「書くこと」の領域で、資料を分類し整理して書くなど、資料を活用することに課題がある。</p>	<p>○漢字の書きについては、読みとともに、家庭学習の徹底を図るとともに、小テストや放課後ドリルの実施の工夫・改善を図る。</p> <p>○複数の資料を読みとらせるために、説明的な文章や言語事項で、資料を比較させ、意見を書かせたり、比較した内容をまとめたりする取組を行う。</p> <p>○单元ごとに関連図書を紹介したり教室に置いたりして、読書活動につなげる取組を行う。</p>
	書く能力	3	-9.7		
	読む能力	3	-3.8		
	言語	10	-9.0		
第2学年	話す・聞く能力	5	2.5	<p>○「書くこと」の領域で、条件に沿って作文を書くことができた。定期試験や授業の中で、条件を示し、資料を根拠にして自分の考えを書く取組を行ったことで、成果が出たと考える。</p> <p>●「言語事項」の領域で、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問の正答率が低く、きまりに関する知識が定着していない。</p> <p>●「読むこと」の領域で、文章の構成や展開をとらえることに課題がある。</p>	<p>○「月に何冊ぐらい本を読みますか」の項目で、「4冊以上」「2～3冊」と答える生徒が全国平均よりも高く、おおむね読書習慣が身についている。(全国+26.2%)</p> <p>●「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか」では、「使わない」「どちらかといえば使わない」と答える生徒が6割を超え、全国平均よりも高く、辞典を使って、調べる習慣があまり身につけていない。(全国平均-9.6%)</p>
	書く能力	15	27.7		
	読む能力	6	5.6		
	言語	6	3.2		
全体	<p>○「読むこと」の領域の文学的な文章で、「登場人物の心情をとらえる」ことができている。描写や言動を根拠にしなが、登場人物の心情や変化をとらえる取組を行ったことで、成果が出たと考える。</p> <p>●「言語事項」の領域で、漢字の読み書きや歴史的仮名遣いの定着に課題がある。</p>			<p>○「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはあるか」の肯定的評価が、全国平均よりも高い。(全国平均1年生+16.4%・2年生3.1%)</p> <p>●「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか」の「使わない」の回答率が全国よりも高い。(全国平均1年生-4.3%、2年生-8.8%)</p>	<p>○言語事項に関わる家庭学習やドリルの取組の工夫・改善を図る。</p> <p>○言葉の意味や使い方など、辞典を活用する取組を取り入れる。</p>

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年	思考・判断・表現	2	-2.1	<p>○「社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感ずることがある」の肯定的な意見が85.7%であった。(全国+16.4%)</p> <p>●「社会の勉強は好き」の肯定的な意見が42.9%であった。(全国-22.0%)</p> <p>●「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになった」の肯定的な意見が42.9%であった。(全国-18.4%)</p> <p>社会科の学習意欲に課題がみられる。一方で、社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感ずていることから、社会の学習の必要性を感じ始めていると考える。</p>	<p>○導入時の確認テストなど、成果のあった取組は継続して行っていく。</p> <p>○全国平均を下回った問題については、復習用教材などを用いて、再度復習をしていく。</p> <p>○「世界各地の人々の生活と環境」の問題の分析から、複数の資料から読み取ったことを関連付けていく指導が必要であると考え。「教えて考えさせる授業」の「理解深化」の場面で、そのような学習活動を意図的に仕組んでいく。</p> <p>○「教えて考えさせる授業」の「理解深化」での指導の工夫を図り、身に付けた知識・技能をしっかりと活用させる。</p>
	技能	2	2.5		
	知識・理解	3	-0.5		
第2学年	思考・判断・表現	8	10.0	<p>○「社会の勉強は好き」の肯定的な意見が53.8% (昨年度35.7%) であり、全国平均(59.7%)には及なかった(全国平均-5.9%)ものの、改善することができた。(同一集団による昨年度の結果は全国-29.5%)</p> <p>●「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになった」の肯定的な意見が53.9%であった。(全国-5.4%)</p> <p>●「社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感ずることがある」の肯定的な意見が53.9%であった。(全国-12.0%)</p>	<p>○「教えて考えさせる授業」の「理解深化」での指導の工夫を図り、身に付けた知識・技能をしっかりと活用させる。</p> <p>○社会的な見方・考え方を働かせる課題発見・解決学習の充実を図り、実際の社会(生活)と社会の授業をつなぐことにより、生徒の関心を実際の社会に向けるように仕組んでいく。</p>
	技能	8	10.0		
	知識・理解	8	9.9		
全体	<p>○1, 2年生ともに、基礎では全国平均と同等あるいはそれ以上の成果を残すことができた。</p> <p>●活用問題について課題がある。</p>			<p>○社会の学習の必要性を感じ始めている。</p> <p>●社会の学習が実際の社会(生活)と結びついていないと考える。</p>	<p>○実際の社会に見られる課題を基にした課題発見・解決学習に取り組み、学んだことを実感させるとともに、学習したことが生活の中で役に立つと実感させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>○社会的な見方・考え方を働かせて課題解決を図るような問いを用いて、学習した知識・技能を活用する場面を設定する。</p>

3 数 学

学年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】	【教科指導工夫改善の具体】
	〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題				
第1学年		目標	結果	<p>○「数学の勉強は好き。」の肯定的意見が 71.4%であった。(全国+12.3%)</p> <p>○「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じた」の肯定的意見が 100%であった。(全国+19.9%)</p> <p>●数学に対する意欲は感じられるが、別解を考えたり、他者との意見交流を好まない生徒がいたりすることが分かった。</p>	<p>○基礎的な力が全国平均をやや下回っているため、前時の振り返りができるような小テストの実施回数を増やし、着実に力を身に付けさせる。</p> <p>○活用問題についても、全国平均を下回っているため、日常生活と数学の世界の結びつきが感じられるような授業を行う。</p> <p>○解法の多様性があるという面白さを実感できるような授業を行う。</p>
	考え方	5	-3.0		
	技能	10	-2.6		
	知識・理解	10	-1.3		
第2学年		目標	結果	<p>○「数学の時間に、色々な考えを発表しあうことが好き。」の肯定的意見が 53.8%であった。(全国+7.9pt)</p> <p>●「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じる。」の肯定的意見が 76.9%であった。(全国-0.2%)</p> <p>○授業の中で多様な意見に触れることが好きで、数学を学ぶ有用性を実感している生徒が多い。</p>	<p>○引き続き、ペア活動やグループ活動などを取り入れ、生徒が多様な考えに触れる機会を作る。</p> <p>○記述問題（合同の証明や文字式による説明）の正答率が低かったため、小テストや家庭学習で復習させ、定着を図る。</p>
	考え方	5	8.8		
	技能	10	9.5		
	知識・理解	10	5.8		
全体	<p>●第1学年は基礎、活用ともに全国平均を上回ることができなかった。</p> <p>○第2学年は基礎、活用ともに全国平均を上回ることができた。</p>			<p>○数学を学ぶことへの有用性を感じている生徒が多い。</p> <p>●どちらの学年も思考力・表現力を身に付ける必要がある。</p>	<p>○レポート課題を設定して自分の考えを記述、発表する機会を増やし、それを評価することで、生徒に自信を付けさせる。</p> <p>○学習した内容を利用して、日常生活における問題を解決するような課題を取り入れる。</p> <p>○第1学年は基礎の定着を図るため、小テストや家庭学習を増やし、演習を重ね、改善に努める。</p>

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年	科学的な思考・表現	7	5.9	○理科の学習をしたことで、生活の中で役に立つと感ずることがありますか」という設問に対して、肯定的意見が100%であった。日常生活と、理科の学習内容をつなげて考えようとする意識が高いと考えられる。  ○「水溶液の性質」38.1(全国比-11.8)と「観察・実験の技能」67.3(全国比-7.0)に課題がある。	○「水溶液の性質」と「観察・実験の技能」には密接な関係があるので、何を明らかにするための実験なのか、計っている質量等はなぜ求めるのか等をしっかりと意識させる授業を考え、結論として何が分かったのかを実験内容から導き出せるような展開を行う。
	技能	25	-7.0		
	知識・理解	10	-2.2		
第2学年	科学的な思考・表現	14	16.8	○すべての単元において、基礎的な内容を問う問題には正答率が高く、基本的な理解はできている。  ●応用問題になると、正答率が下がり、基本的な知識の活用について課題がある。  ●半数の生徒が理科の勉強が好きではないと回答している。教科内容に興味を持たせる手立てが必要である。  ●質問の中でも生活の中で役立っているということを実感することが少ない(肯定意見69.2%(全国比+8.3%)という結果になり、生活と学習内容が繋がっていない実態がある。	○基本的な内容を扱った際に、応用的な問題を例示し、学習したことを使って解答させるような取り組みを授業の中で展開する。その際、より身近な話題で提示できるよう内容について吟味する。
	技能	21	-4.6		
	知識・理解	19	9.3		
全体	○学習内容と日常生活をつないだ授業展開を考えている。 ●実験・観察の内容について、単純な作業になっている。 ●応用的な問題への活用力が低い。			●教科への苦手意識があり、学習内容とその有用性について、しっかり考えることができていない。	○どのようにして日常生活と教科内容をつなげていくのかを考える。

5 英語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	表現の能力	理解の能力	知識・理解			
第1学年	5	10	5	<p>○帯時間でのペアトークや英作文自己表現活動の取組の結果活用が全国を上回ったと考える。(全国+5.8pt) また、外国語表現の能力が全国より上回った。(全国+6.5pt)</p> <p>●聞くことの領域(内容理解とさまざまな英文の聞き取り)に課題が見られた。</p> <p>●3文以上の英作文に課題が見られた。</p>	<p>○「英語の勉強をしたことで生活の中で役に立つと感じる」と肯定的に答えた生徒が85.7%であった。(全国+8.7%)</p> <p>○「学校の廊下で外国人講師の先生に英語で話しかけられたら積極的に英語で会話しようと思う」と肯定的に答えた生徒が28.6%であった。(全国+9.1%)</p> <p>●「英語が好きだ」と肯定的に答えた生徒が57.2%であった。(全国-7.7%)</p>	<p>○英語での指示やリスニング課題を課すなど、聞く時間を増やす。</p> <p>○辞書を使って、テーマに沿ったスキットやスピーチ制作をし、発表させる。</p> <p>○苦手意識を軽減できるよう、興味を持てる教材の工夫をする。</p>
第2学年	10	10	10	<p>○帯時間でのペアトークや英作文自己表現活動の取組の結果活用が全国を上回ったと考える。(全国+17.1%)</p> <p>○英文の読み取りに、目的に合わせ、多様な言語活動を仕組んだことや、まとまりのある英文を書く言語活動において、文章構成に重点を置いた取組を行ったことで、読むことの領域全てに成果が見られたと考える。</p> <p>●リスニング(さまざまな英文の聞き取り)に課題があった。</p> <p>●3文以上の英作文に課題があった。</p>	<p>○「学校の廊下で外国人講師の先生に英語で話しかけられたら英語で会話しようと思う」と肯定的に答えた生徒92.3%(全国+11.3%)であり、前年度同一集団より1.4%増加した。</p> <p>○「テレビやラジオで英語番組を見たり聞いたりするなど、家庭で英語の勉強をすることがある」と肯定的に答えた生徒46.2%であった。(全国+8.5%)</p> <p>●「英語の辞書を使う」と答えた生徒が、同一集団の前年度より2.2%増であるものの全国平均より低い。(全国-11.6%)</p> <p>●「英語が好きだ」と答えた生徒が30.8%であった。(全国-33.5%)</p>	<p>○英語での指示やリスニング課題を課すなど、聞く時間を増やす。</p> <p>○辞書を使って、興味を持てるテーマに沿ったスキットやスピーチ制作をし、発表させる。</p> <p>○日常会話の中で知らない語を辞書で調べる機会を設ける。</p> <p>○興味を持てる教材の工夫をする。</p>
全体	<p>○1・2年生ともに基礎・活用とも全国を上回っている。</p> <p>●1・2年生とも語形・語法の知識・理解の値が低い。</p>			<p>○1・2年生ともに「学校の廊下で外国人講師の先生に英語で話しかけられたら英語で会話しようと思う」と答えた生徒が多い。</p> <p>●1・2年生ともに「英語の辞書を使う」及び「英語が好きだ」と答えた生徒の割合が低く、意欲の低さからか自主性が乏しい。</p>	<p>○意欲向上のため興味を持てる教材の工夫として自己表現のテーマや発表方法の工夫を行う。</p> <p>○授業での英語使用場面を増やす。</p>	

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○「勉強は大切だ。」「勉強をすればよい成績をとれると思う。」「受験に関係なくても大切だ。」という設問に対して 100%肯定的な回答であるため、この点を大切にし、自信を持たせたい。</p> <p>●学習の必要性を感じてはいるが、どのように取り組んでいけば良いかをイメージできていない様子が見られる。</p>	<p>○学習の有用性や勉強するとはどういうことなのかをイメージできるような機会を持つ。なぜ、勉強するのかを生徒1人1人が意識し、自分の中で納得のいく答えを出させたい。そのために、教科内容だけでなく、意義についても考える取り組みを行う。</p>
第2学年	<p>○「勉強は大切だ。」「受験に役立つよう、勉強したい。」「勉強すれば、自分の好きな仕事につくことに役立つ。」「よい成績がとれるよう、勉強したい。」という設問に対して 90%以上の生徒が肯定的な回答を行っており、自分の将来や進路に関する意識が高いと考えられる。</p> <p>●「普段宿題がなくても毎日勉強する。」と肯定的な回答をした生徒が、46.2%と低く、自学の習慣の定着を図る必要がある。</p>	<p>○全体的に自分の進路については真剣に考えている生徒が多い。一方で、宿題がある時だけする生徒が多い傾向にあるので学活やSHRを通じて学習方法や学習内容について指導を行っていく。</p> <p>○高校入試を意識させた家庭学習に取り組ませる。</p>
全体	<p>○「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい。」「勉強すれば、自分のふだんの生活や社会に出て役立つ。」という設問に対して、1, 2年生ともに 90%以上の生徒が肯定的な回答を行っている。これらのことから、学習の必要性を強く感じている生徒が多い。</p> <p>●「普段宿題がなくても毎日勉強する。」と肯定的な回答をした生徒について、1年生が 57.2% (全国ー7.8%)、2年生が 46.2% (全国ー10.2%) と全国平均を下回っている。</p>	<p>○学習の意義や有用性について考える取り組みを行う。</p> <p>○本校が取り組んでいる「教えて考えさせる授業」とリンクした学習方法を生徒に示す。</p> <p>○主体的に学習に取り組む生徒の育成に向けて、宿題の出し方について工夫を図り、自分で学習計画を立案し、計画的に学習に取り組ませるようにしていく。</p>